

障がい児教育部会言語部門 理論研修会 終了報告

テーマ	「ことばの教室の基礎・基本について」	
日時	平成30年 8月 8日(水) 13:30～16:00	
会場	石狩教育研修センター	
講師	池田 寛 氏 (肩書:さっぽろ子どもの聞こえ相談ネットワークを作る会 幹事会代表)	
参加者	40名	
研修会 の 様子		<p>長年、札幌市内の難聴学級を担当し、言語障害児教育の研究団体でも事務局長や研究員をされていた池田 寛氏をお迎えし、「ことばの教室の基礎・基本について」というテーマで、講演いただきました。</p>
		<p>はじめに、ことばの教室の三つの役割、教育目標・教育活動についてのお話がありました。 ことばの教室は相談機関・指導機関・他の機関へつなぐ役割を担い、「主体的に人と会話できるようになること」を目標として、その子にとって確かな会話体験を積む場であることを再確認しました。</p>
		<p>次に、子どもを理解するための手立てとして、様々な側面から行動観察を行い、さらに成育歴、保護者や担任、関係機関からの情報、検査結果などから総合的に考えて、「子ども理解の仮説」「問題の仮説」「指導の仮説」を立てていくこと、定期指導を行いながら仮説の見直しを繰り返していくことが大切であるとの説明がありました。</p>
		<p>「指導の中では『子どもの安心・動機・満足』を大切にすることが大事」「この三つを外すと指導はうまくいかない」という先生の言葉に、参加者一人一人が自分の指導場面を振り返ったことと思います。 「私たちは『ことばの専門家』ではなく、『その子の専門家』になる」という言葉が印象的でした。</p>
		<p>最後はこれらの理論をもとに、池田先生が実践記録の分析をしてくださいました。 全体を通してわかりやすく丁寧に説明くださり、ことばの教室担当者はもちろん、特別支援学級、通常学級でも共通する子どもの見方、指導の仕方、保護者とのかかわり方への示唆があり、大変有意義な研修となりました。</p>